

# リノベのいばらきプロジェクトの取組経過及び成果等について（1/4）

## 1.目的等

### ① 背景・目的

- ・持続可能なまちづくりを進めていくためには、様々な場面で活動する活動人口の創出・増加が重要
- ・DIYやまちのリノベーションを通じて活動人口の創出・増加を図り、「地方創生」をめざす社会実験として、阪急本通商店街の空き店舗を活用し、平成29年12月からDIY工房の運営を開始

### ② 社会実験の検証項目

- ・工房運営による検証項目は以下2点
  - (1) DIYやまちのリノベーションを通じた活動人口の創出・増加
  - (2) 工房運営の自走化（公平性・公益性と収益性の両立）



## 2.実績データ

### ① DIY工房の運営

- ・活動拠点としてのDIY工房を週4日開設（令和5年4月からは週2日）
  - ⇒運営期間：約5年8月（平成29年12月10日～令和5年8月30日）
  - ⇒利用者累計：約1,850名（フリー利用、月平均で20～30名程度）

### ② 工房主催ワークショップの展開

- ・DIY工房において主催ワークショップを積極的に展開
  - ⇒305回の開催で約4,100名が参加（令和5年度までの累計）

### ③ 他のまちづくり活動等との連携やまちのリノベーションの展開

- ・DIY工房内外で、他のまちづくり活動との連携を推進
  - ⇒(例) 「ガンバル市」や「いばらき立命館DAY」等への出店
  - 茨木小学校150周年記念事業とのコラボ事業
  - 大学活動との連携（市内大学や豪モナシュ大学など）



# リノベのいばらきプロジェクトの取組経過及び成果等について（2/4）

## 3.社会実験検証項目の整理①

### 検証項目(1)：DIYやまちのリノベーションを通じた活動人口の創出・増加

- ① コロナ禍の影響等もあり、工房の利用や認知は伸び悩んだが、  
まちづくりのコンテンツとして、DIYを含む"ものづくり"の強さや有用性が確認された。
- ② 人がまちに関わるきっかけとして、まちのリノベーション（備品づくり等）を推進したが、  
民間物件を手掛けるハードルは高く、取組の持続化に課題が確認された。

#### (視点1) DIY等の"ものづくり"への着目について

1. コンテンツとしての強さや有用性が確認  
⇒他の活動とのコラボの容易さや、イベント展開時の集客力
2. まちづくりのプレーヤー創出に寄与  
⇒プロジェクトがきっかけで生まれた市民活動団体が自主的に活動開始  
⇒ハンドメイドクリエイター等のチャレンジの場としても活用

#### (視点2) まちのリノベーションについて

1. 市民WS等で、まちのリノベーションに向けた取組を推進
2. 取組の持続化に課題  
⇒不動産事業者ヒア（R3.1月）の結果、民間物件発掘や所有者調整に課題

#### (視点3) DIY工房について

- ・ 工房としての利用や認知は伸び悩み  
⇒フリー利用人数は、月平均で約20名（令和4年度）  
⇒コロナ禍の影響で活動が進まず（緊急事態宣言下で二度の休業期間）  
⇒店舗改装によりオープンな雰囲気づくりを行うも、新規利用は伸び悩み



#### まちのリノベーションの一例(市民WS等で制作した備品等)

- ・IBALAB@広場ベンチ
- ・市役所プランター
- ・にぎわい亭掲示板
- ・本町駐輪場ベンチ
- ・阪急本通商店街屋台(豪モナッシュ大・立命館大コラボ)
- ・工房シャッターアート(茨小150周年コラボ)
- ・「みちクル」ストリート看板



# リノベのいばらきプロジェクトの取組経過及び成果等について（3/4）

## 4.社会実験検証項目の整理②

### 検証項目(2)：工房運営の自走化（公平性・公益性と収益性の両立）

- ①公平性や公益性（市民が利用しやすいサードプレイスの提供）と、収益性（工房収支の黒字化）の両立は、将来的にも困難である。
- ②大学や事業者に対するサウンディング調査等を行ったが、工房の持続的運営に向けた解決策は見いだせず。

#### （視点1）公平性・公益性と収益性について

##### 1. 市民が利用しやすい料金水準での持続的運営は困難

- ⇒中心市街地の一等地に立地しながら、サードプレイスの趣旨を踏まえた幅広い市民利用を可能にするためには、工房事業以外での収益や公費による補てんが必要
- ⇒工房スペースの転貸や店頭販売スペースの設置、空家リノベーション事業による手数料収入獲得などを模索したが、抜本的な収支改善には至らず

##### 2. 市民活動団体による自主運営は、公平性・公益性と収益性の両立に課題

- ⇒工房事業以外での収益獲得や公費負担は、公平性の観点から課題
- ⇒その反面、上記がなければ、公益性（サードプレイス）の維持が困難

#### （視点2）大学や民間事業者による運営について

##### 1. サウンディング調査の結果、「工房用途」での担い手発掘は不可能と判断

#### 大学や民間事業者へのサウンディング調査(令和4年9月～11月)

- ・会社として運営に関わることができないが、商品協賛など個別取組での連携可能性はある。(家具・インテリア事業者)
- ・物件の立地は良く、様々な活用が想定されるが、会社として運営に関わることは難しい。(ハウスメーカー)
- ・大学が運営を担うことは困難である。(市内大学)
- ・工房事業を担うことはできないが、物件を事務用途で活用する可能性はある。(市内事業者)



# リノベのいばらきプロジェクトの取組経過及び成果等について（4/4）

## 5.社会実験の総括(今後の市の施策展開に向けて)

① ”ものづくり”は、活動人口の創出・増加との親和性が高い。

**人がまちに関わるきっかけとなるコンテンツとして、今後も活用することが有用である。**

- ☞ WSには人を巻き込む力があるため、市民活動団体や民間事業者等と連携を図り、活動のきっかけを生むコンテンツとしては有用
- ☞ 用途が"DIY"に限定される常設の拠点を設けることには課題



② **自走化（公平性・公益性と収益性の両立）のあるべき姿**については、今後、”共創”の取組をさらに推進していくにあたっての検討課題である。

- ☞ 公益的である結果、単体では赤字とならざるをえない取組を持続化させるにあたっては、運営主体による収益活動とのミックスを推進していく必要
- ☞ 行政として、運営主体を育てる（後押しする）観点と、公平性の観点のバランスが重要

③ まちなかにおける多用途で使い勝手の良い”場”への市民ニーズを踏まえ、**当該物件は別用途で継続活用する方向で検討することが望ましい。**

- ☞ 利用者へのヒアリング調査等の結果、まちなかにおける多用途で使い勝手の良い”場”に対する確かな市民ニーズを確認
- ☞ リノベのいばらきの良さであった「公共施設ではない場」の価値を引き続き模索